

今日のトピック RBAは3会合連続で0.5%の利上げを実施 経済情勢に配慮しながらもインフレ抑制が最優先課題

ポイント1 3会合連続で0.5%の利上げ

- 8月2日、豪州準備銀行（RBA）は金融政策決定会合で、政策金利である翌日物金利の目標を1.85%に引き上げました。利上げは4会合連続で、利上げ幅は3会合連続で0.5%と、大幅な利上げが続いています。
- RBAは声明文で、経済を安定させつつ、インフレ率を長期的に2～3%（RBAの物価目標）の範囲に戻すことに高い優先順位を置く、と強調しました。

ポイント2 インフレ抑制を重視

- 現在、世界的に高インフレが大きな問題となっている中、豪州の消費者物価指数（CPI）も、1990年初以来の高水準となっています。7月27日に発表された4～6月期のCPIは、前年同期比+6.1%とRBAの目標を大きく上回っています。また、変動の大きい項目を除外した、基調的な物価を示すトリム平均値では同+4.9%でした。
- RBAの中心的な予測では、インフレ率は2022年末には7.75%程度と今年中にピークを迎え、その後は2023年末に4%超、2024年末に3%程度と、徐々にRBAの物価目標に向かって低下していくと見られています。

今後の展開

利上げ継続姿勢だが、経済情勢に配慮しながらの舵取りとなろう

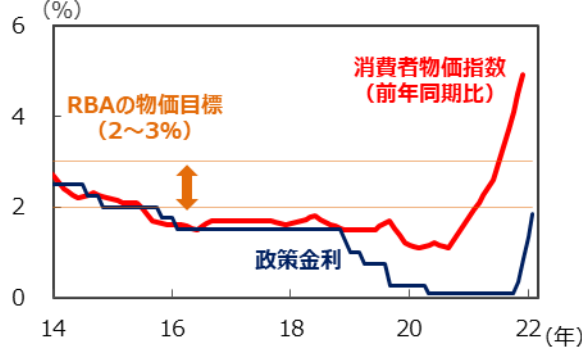
- RBAは金融環境を正常化するためにはさらなる措置が必要としているものの、豪州経済への配慮もにじませており、経済情勢次第では今後は複数回の利上げを行わずに様子見に転じる可能性もあると考えられます。
- 利上げは概ね市場予想の通りでしたが、RBAがややハト派的なスタンスを示したことから、会合後の為替市場では豪ドル安・円高となりました。しかし、その後、米連邦準備制度理事会（FRB）の高官から米利上げに強気な発言が聞かれたことで米ドル高・円安となり、豪ドルの対円レートも会合前の水準に戻っています。今後もRBAの引き締め的なスタンスは続くと考えられ、対円で豪ドルは堅調な展開となることを見込まれます。

ここもチェック!

2022年8月 1日 金融相場的な色彩を強める米国株式市場
2022年7月26日 2022年8月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

【消費者物価指数と政策金利】



【豪ドル円レートと豪日金利差】

